

ベートーベン ピアノソロ全曲集

マルティーノ・ティリモがヘンスラーレーベルからベートーベンピアノソロ全曲集をリリース致しました。ベートーベンが生涯作曲した全てのソロ作品が1つのボックスに16枚CDとして入っており、全ての作品がライブツィヒにあるゲバンハウスで録音されました。この大がかりなプロジェクトは、珍しく、未だ嘗てない出来事であり、クラシック音楽において最高傑作です。

このボックスセット(HC19032)は、特別価格で現在販売されております。それぞれのCD詳細リストに関しましてはこちらをご覧ください。

ベートーベンの250年生誕記念として、マルティーノは今後3年に渡り、全国各地で全ベートーベンコンサートを行う予定です。

マルティーノ・ティリモ(Martino Tirimo)の演奏はたびたびシュナーベルやアラウ、ルービンスタインと比べられる。そして、EMIやBMG、その他のレーベルより発売されたブラームス、ショパン、ラフマニノフ ピアノ協奏曲、作曲家自身の指揮したティペット・ピアノ協奏曲、その他にもモーツァルト、ベートーヴェン、ドビュッシー・ピアノ独奏曲 全曲集、そしてEMIよりシュールベルト・ピアノ ソナタ全曲、21曲を世界初の計8枚CD集で出版。これまでに発売したディスコグラフィは50を超える。ラフマニノフ 協奏曲第2番とパガニーニ・ラブソディーはEMIのベストセラーになり、Gold Disc (ゴールド・ディスク)を受賞。2011年9月には、芸術と科学の分野で優れた人に贈られる「2011年ネミトサス財団賞」を受賞。

2009年から2010年は、ショパン生誕200年記念により、ショパン全作品を演奏し100近くの公演を行う。数々のコンサート・シリーズは優れた評論の賞賛を受けた。これらの公演のうち、6つのピアノとオーケストラのための作品の公演を含む、10の公演はロンドンのキングス・プレイス (King's Place) で行われた。音楽誌アーツ・デスク (The Arts Desk)は「驚くべき偉業」と評した。

ティリモはキプロス島のギリシャ系音楽一家の家に生まれた。6歳より名ヴァイオリニストであり、指揮者でもあった父と常に室内楽を演奏していた。彼は神童として8歳より協奏曲を演奏し、たった12歳でミラノ・スカラ座のソリスト達による「椿姫」を音楽祭で7公演指揮した。13歳の時、家族でロンドンに移住し、16歳でフランツ・リスト奨学金を取得し英国王立音楽院に入学、首席で卒業した。その後、ウィーンにて研鑽を積み、再びイギリスにて彼の良き指導者であるゴードン・グリーン氏に師事した。ゴードングリーンは、彼の生涯の中で音楽を確立させてくれた数少ない教師の一人であった。

1971年と1972年はミュンヘンとジェノヴァにて、国際コンクールに優勝したことで世界的に脚光を浴び、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ドレスデン・シュターツカペレ オーケストラ、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス 管弦楽団、クレーヴランド・オーケストラ、ロンドン・シンフォニー 管弦楽団、フィルハーモニア、ロンドン・フィルハーモニック、ロイヤル・フィルハーモニック、セイント・マーティン・イン・ザ・フィールズ (St. Martin in the Fields)アカデミー・オーケストラを含む著名な**オーケストラ**と世界中で演奏した。これまでに共演した**指揮者**はバルビローリ、ベングルンド、ポルト、ビシュコフ、エルダー、クリー、マリナー、ノリントン、クルト・ザンデルリング、そしてラトル。その他にもドイツ国内とロンドンのロイヤル・フェスティバル・ホールにて、ドレスデン管弦楽団と共演し、ベートーヴェン協奏曲をピアノから弾き振りした。

人生の最もハイライトの一つは、2004年アテネ・オリンピックにて**オリンピック聖火**と共に走る名誉に預かったこと。おそらく、これを成し遂げたクラシック音楽家では今までにないだろう。

指揮者としてはドレスデン管弦楽団をはじめ、イングリッシュ室内楽オーケストラ、プラハ室内楽オーケストラを頻繁に指揮している。**作曲家**として、映画「オデッセイ」は8回、イギリス国内ではチャンネル4、ヨーロッパ、アメリカでも放送された。記憶すべき**テレビ出演**ではUN設立50周年記念と作曲家ティペットの生誕90周年記念として、コベントリー大聖堂で行われた演奏会にて、ティペット・ピアノ協奏曲が生放送された。2002年より大変意欲的に**室内楽**にも取り組んでおり、**ロザムンデ トリオ** (www.rosamundetrio.com) で数多くツアーを行っている。

レパートリーは膨大で、80の協奏曲、偉大な作曲家の主流のソロ作品を含む。特に、ドヴォルザーク・ピアノ協奏曲、そしてドイツ、イギリスにて作曲家自身の指揮の下、幾つもの演奏をこなしたティペット・ピアノ協奏曲においては第一人者と言えるであろう。BBC管弦楽団と共演した、ニンバス社のレコーディングは「歴史上重要」と評された。

マスタークラスにも非常に意欲的で世界中で開催し、時折、**インターナショナル・ピアノ・コンクール**の審査も受け持っている。彼の12人の生徒達がこれまでに、**インターナショナル・コンクール**にて優勝を果たしている。

シューベルトの解釈・音楽作りは特に有名で、ウィーン原典版社のシューベルト・ピアノ・ソナタ全曲集（全3巻）の原典版ではマルティーノが完成させた未完成の楽章も同時に出版された。2014年にはロンドンのキングス・プレイス (King's Place) にて再びシューベルト・ピアノ・ソナタ全曲と共に、他にもシューベルトの良く知られている作品を演奏する予定である。

「感激させるピアノの詩人」

「見識のあるピアニスト」 **デイリー・テレグラフ (The Daily Telegraph)**

「彼の演奏は、過去の世代の『偉大さ』を持っている。彼を聴くとソロモンやアラウ、ケンフ、サーキン、バックハウス、そしてルービンスタインを思い起こさせる。最高の音楽家が作曲家に対してのすべての任務をたしたことを、皆が一貫にこの演奏会を通して感じるであろう。」 **ミュージック アンド ビジョン (Music and Vision)**

より詳しい情報は、英語版の「経歴」、「レコーディング」、「レビュー」、「レパートリー」、「オーケストラ」、「新聞」等を見てください。または、「お問い合わせ」から直接、私たちに情報請求してください。